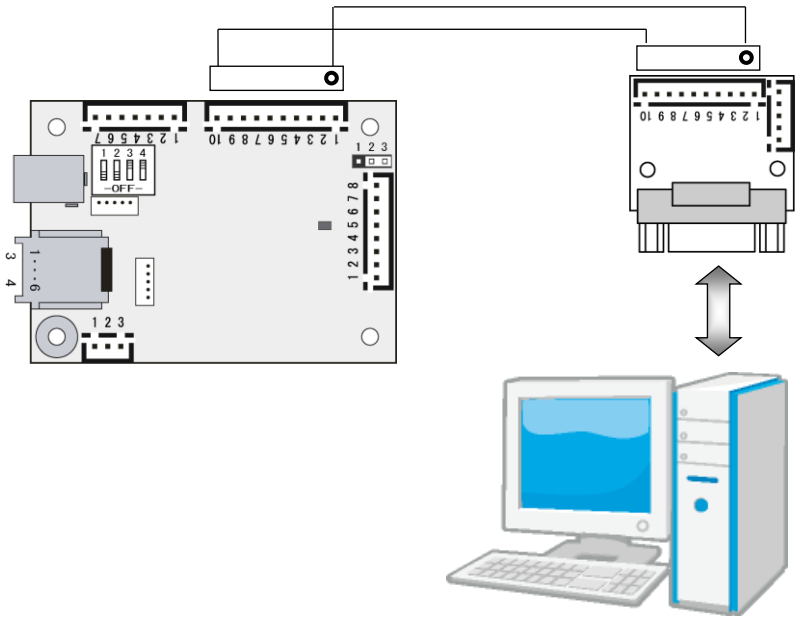
電話回線制御ユニット（ＴＫ－７５９０Ａ／ＡＶ）
ＡＴコマンドによる設定例

■目次

１　概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
２　フリーソフト「Ｔｅｒａ　Ｔｅｒｍ」の設定　・・・・・　１
３　音声データのアップロード　（ＡＶのみ）　・・・・・・・・　２
４　設定の保存　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
５　出荷時設定に戻す　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
６　設定手順　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
７　自動着信と識別自動着信　・・・・・・・・・・・・・・・・　５
８　プシュボタン操作でＯＮ／ＯＦＦ　・・・・・・・・・・・　６
９　各種動作状態の接点出力　・・・・・・・・・・・・・・・・　９
１０　グループ通報　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
１１　外線電話機から遠隔放送を行う　・・・・・・・・・・・・１２
１２　回線モニター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
１３　疑似交換機のご案内　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

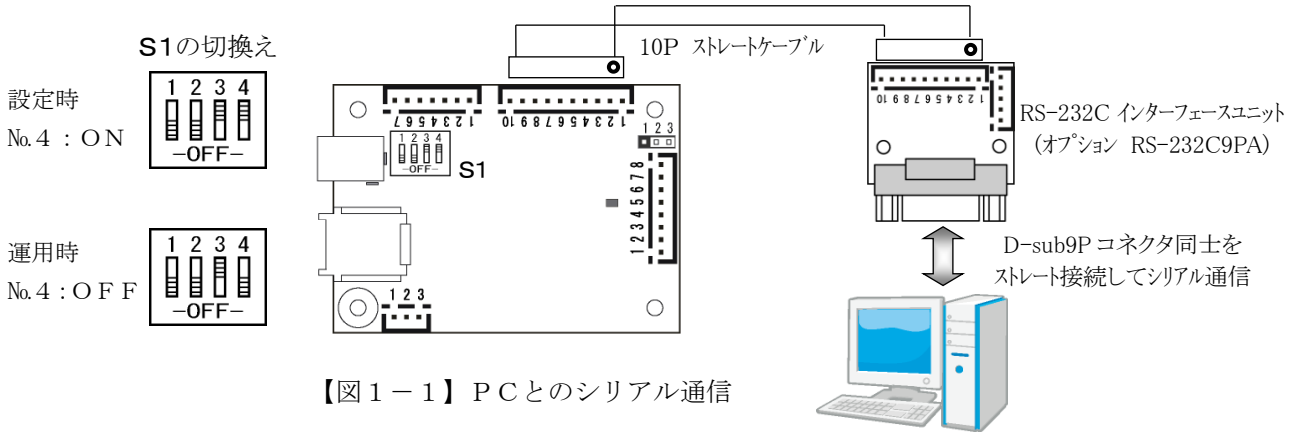


■１　概要

シリアルインターフェースオプションを取り付けると、一般的なパソコンから、設定の参照変更が可能です。

設定例では、フリーソフト「Ｔｅｒａ　Ｔｅｒｍ」を使用して、設定を行っていきます。
設定の詳細は「リファレンスマニュアル」を参照して下さい。

【図１－１】のように、ＲＳ－２３２Ｃインターフェースを介してパソコンのＲＳ－２３２Ｃコネクタと、ストレートケーブルで接続します。設定時、ディップスイッチＳ１は、「№３：ＯＮ」「№４：ＯＮ」にします。設定終了後は、「№４：ＯＦＦ」にします。

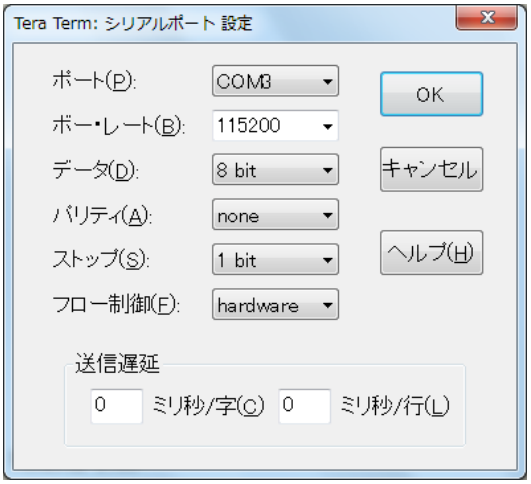


【図１－１】ＰＣとのシリアル通信

■２　フリーソフト「Ｔｅｒａ　Ｔｅｒｍ」の設定

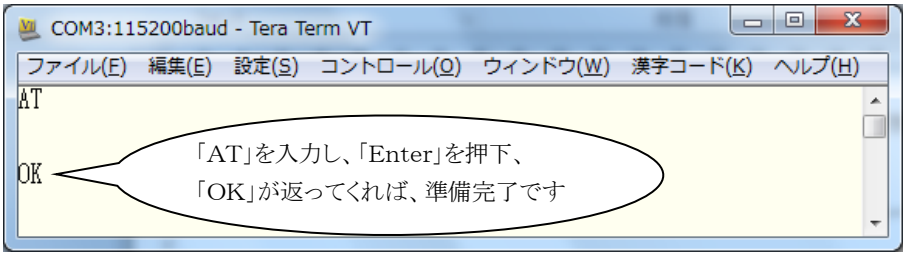
・「設定」メニューの「シリアルポート」を開き、ポート以外を【図２－１】のようにし、「ＯＫ」をクリックします。
　※ポートは、ご使用のパソコンと本製品が接続されているポートを指定して下さい。
・「設定」メニューの「端末」を開き、「改行コード」の「受信」を【図２－２】のようにし、「ＯＫ」をクリックします。
・「ＡＴ」を入力し、「Ｅｎｔｅｒ」を押下し、「ＯＫ」が返ってくれば、準備完了です。（【図２－３】を参照）
　※ポートを開いた直後は、「ＥＲＲＯＲ」が返ることがありますので、「ＯＫ」が返るまで「ＡＴ」を入力し、
　「Ｅｎｔｅｒ」を押下して下さい。

【図２－１】シリアルポート設定



【図２－２】端末の設定

【図２－３】動作確認



■３　音声データのアップロード（ＡＶのみ）

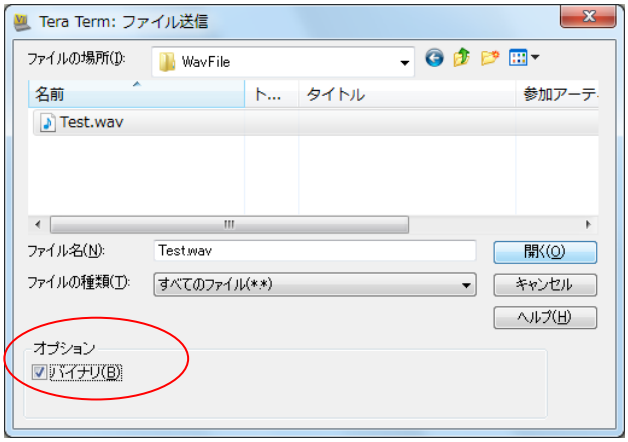
ウェーブファイルを、指定した音声メモリー番号（０～９９）にアップロードします。
※ウェーブファイル（.wav）は、非圧縮ＰＣＭ、８ＫＨｚサンプリング、８ビット／１６ビット、モノラルのものをご用意下さい。
　ご使用になるパソコンによって、録音や変換方法が異なるため、パソコンのヘルプ等を利用してご用意下さい。
※本装置は、デフォルト設定の場合、「自動発・着信時には音声メモリー№０を自動再生」します。

◇音声メモリー№０に、「Test.wav」ファイルの内容を保存する場合
　「ＡＴ＃ＶＴＭ＝０」コマンドを入力し、「ＣＯＮＮＥＣＴ」が返って来たのを確認後、（【図３－２】を参照）
　「ファイル」メニューの「ファイル送信」を開き、ウェーブファイルの選択とバイナリにチェックを入れ「開く」をクリックします。
　（【図３－１】を参照）。　アップロードが始まり、「ＯＫ」が返ってくれば完了です。（【図３－２】を参照）

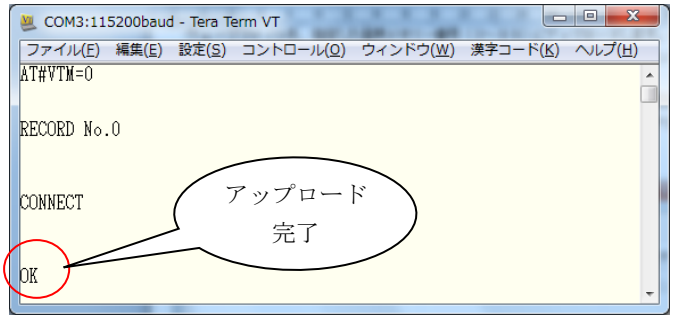
◇音声メモリー№０のデータを消去する場合
　「ＡＴ＃ＶＭＣ＝０」

◇音声メモリー№０～№９９のデータを全て消去する場合
　「ＡＴ＃ＶＭＣ＝ＡＬＬ」
※消去時間は、データの大きさによって変わり、１秒～最長１６０秒かかりますので、消去中に電源が落ちないようにご配慮下さい。
　消去が完了すると、「＜ＤＬＥ＞＜ＥＴＸ＞」（16 進数で、10H 03H）を返しますが、画面には表示されませんのでご留意下さい。
　消去中に、音声関係のコマンドを送ると、「ＥＲＲＯＲ」を返します。

【図３－１】ファイル送信



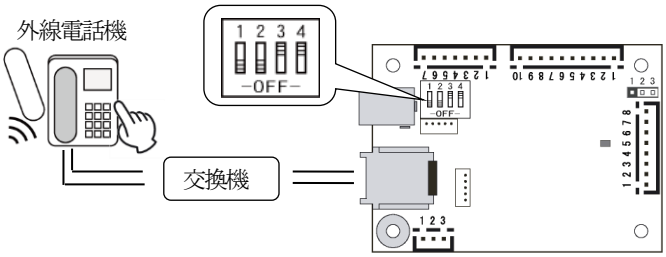
【図３－２】アップロード完了時の表示



［参考］
本書はＰＣでのＡＴコマンドによる設定例の解説ですが、音声録音については【図３－３】のように、「外線電話機」より本機に架電、自動着信させた後、「外線電話機」のＤＴＭＦコマンド、及びハンドセットのマイクによる簡便な“直接録音”も可能です。

★音声メモリー番号１にメッセージを録音・再生・消去を行う場合
①準備：ディプスイッチの№３、４をＯＮにし「自動着信」、「設定モード」に入る →「ピピ…ピピ…」音、確認
②録音：「＃８６０１＊」で「ピッピッピッ」の後、録音の“開始”→「＃」で“停止”、「ピー」音で終了
③再生：「＃８５０１＊」で「ピッピッピッ」の後、録音の“再生”→「ピー」音で終了
④消去：「＃８４０１＊」で録音の“消去”→「ピー」音で終了
　※②、③、④ではいずれも、一連の操作を「ピー」音確認で終了した後、放置すると①の「ピピ…ピピ…」音の待機状態に戻ります。

ＤＴＭＦコマンド	内　容	音声メモリー番号
＃８６ｕｕ＊	音声の録音	ｕｕ：００～９９ （２桁で指定）
＃８５ｕｕ＊	録音済みの音声を再生	
＃８４ｕｕ＊	録音済みの音声を消去	



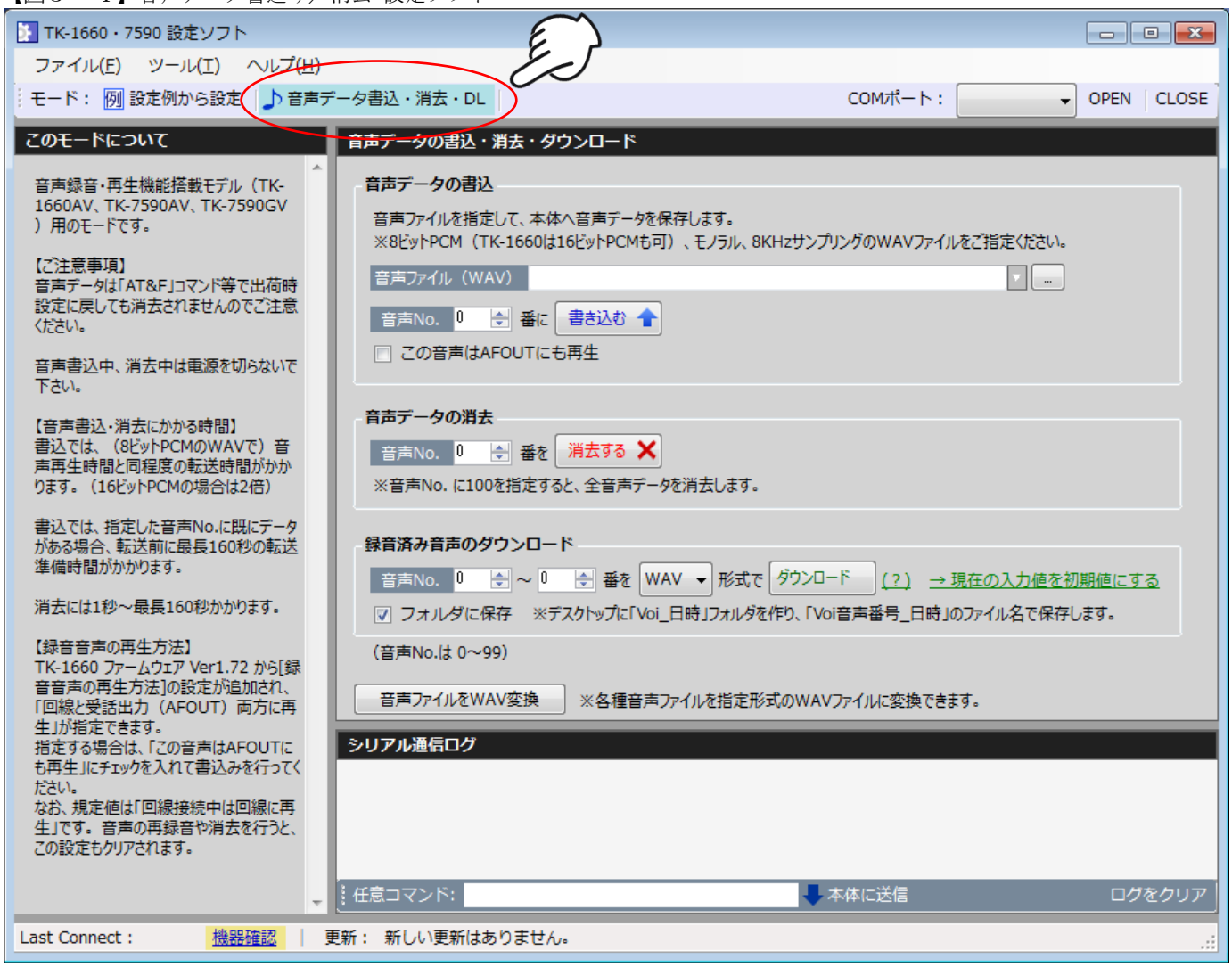
【図３－３】外線電話機で直接録音

なお、これらの操作は【図１３-１】でご案内する「疑似交換機」をご利用いただくと便利です

●ＴＫ－１６６０・７５９０設定ソフトについて

前項で説明しました一連の「音声データの書込みと消去」については、以下の「ＴＫ－１６６０・７５９０設定ソフト」をご利用いただくと容易です。弊社ホームページより設定ソフト（フリーソフト）をダウンロードしてください。

【図３－４】音声データ書込み／消去 設定ソフト



「音声№０」のメッセージは、本装置が自動着信を行うと最初に起動するメモリーです。録音していなければ、通常着信します。
「音声№１～９９」は通常使用の登録メモリー番号になります。

ＡＶの場合は自動着信直後、「音声メッセージ№0」を再生します。録音していなければ通常動作します。

■４　設定の保存

以降で解説する各種設定においては、設定後に「ＡＴ＆W」コマンドを入力し、「Ｅｎｔｅｒ」を押下し設定の保存を行います。

※設定の保存を行わないと、電源を切ると、変更した設定は失われます。

■５　出荷時設定に戻す

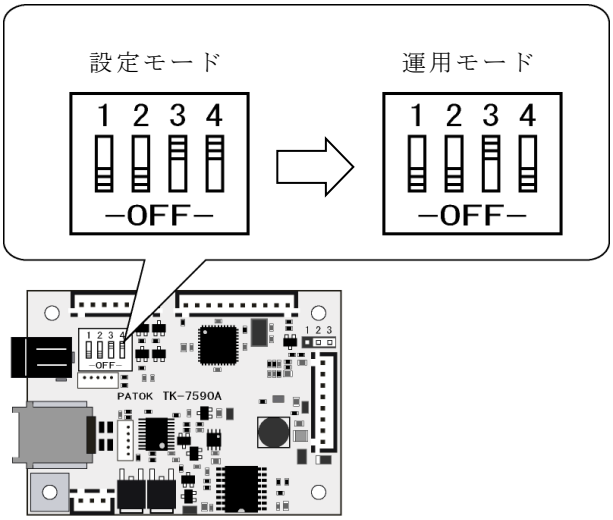
各種の設定をクリアーして出荷時に戻すには「ＡＴ＆Ｆ」コマンドを入力し、「Ｅｎｔｅｒ」を押下します。

※以降の設定例では、コマンドの後の「Ｅｎｔｅｒ」押下を省略していますので、コマンド入力後に「Ｅｎｔｅｒ」を押下して下さい。
※以降の設定例では、この出荷時設定を元にしています。

■　６　設定手順

次の４項目を実施してください。

① ディップスイッチＳ１の№４をＯＮ（設定モード）にする。



② 設定作業前に「ＡＴ＆Ｆ」コマンドで出荷時に戻すことをお勧めします。

③ 設定終了後は「ＡＴ＆W」コマンドで設定の保存を実行してください。

④ ディップスイッチＳ１の№４をＯＦＦ（運用モード）に戻す。

上記の４項目は各設定に関連する事項ですが、本書では簡素化のため記載を省略します。

次ページの例で
“●１０回のコールで自動着信を行うには”　の設定手順は

Ｓ１の№４をＯＮ	セットモードにする	記載省略
AT&F	出荷時設定にする	記載省略
ATS0=10	呼出信号を１０回検出したらオフフック	
AT&W	設定を保存（これで電源をＯＦＦにしても設定は保存されます）	記載省略
Ｓ１の№４をＯＦＦ	動作モードに戻す	記載省略

ですが、本書では

ATS0=10	呼出信号を１０回検出したらオフフック

のように「目的コマンドのみの記載」方法で進めます。

■７　自動着信と識別自動着信

ＡＶの場合は自動着信直後、「音声メッセージ№0」を再生します。録音していなければ通常動作します。

●１０回のコールで自動着信を行うには

ATS0=10	呼出信号を１０回検出したらオフフック

●自動着信を行わないようにするには

AT!VF16	ＣＮ５をシリアルインターフェース入出力に設定
ATS0=0	自動着信を行わない

●３回のコールで識別自動着信を行うには

識別自動着信を行うには、相手方電話番号を登録する必要があります。

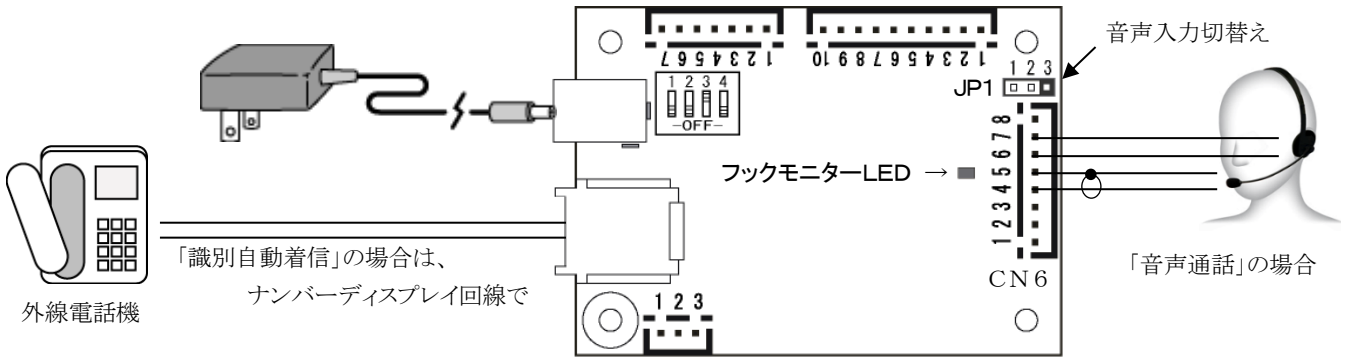
（登録電話番号を 0827-24-0081 と 0827-24-1444 にした場合）

AT&Z10=0827240081	メモリー番号１０に電話番号０８２７-２４-００８１を登録する
AT&Z11=0827241444	メモリー番号１１に電話番号０８２７-２４-１４４４を登録する
AT!C1	電話番号がグループ１の登録内容と一致した時、自動着信を許可する
ATS0=3	呼出信号を３回検出したらオフフック

※識別自動着信を使用するとき、市外局番を省略することは出来ません

●コンデンサマイク式のヘッドセットを使って外線電話機と音声通話を行うには

音声入力切替え用のジャンパーピン（ＪＰ１）を１－２間短絡



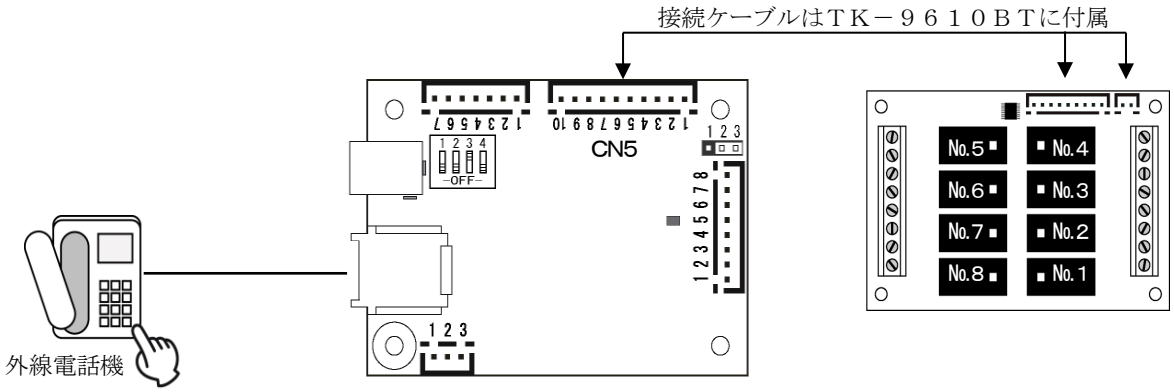
【図７－１】自動着信の基本接続

■８　プッシュボタン操作でＯＮ／ＯＦＦを行う設定

自動応答中に、プッシュボタン式電話機のプッシュボタン操作で、ＯＮ／ＯＦＦを行います。

［Ａ］ＣＮ５にリレーボード（ＴＫ－９６１０ＢＴ）を接続して行う

（以下、設定はじめの項目に AT!VF3 を入れ、ＣＮ５の用途をＴＫ－９６１０ＢＴ用にします）



【図８－１】ＣＮ５をＴＫ－９６１０ＢＴ制御専用コネクターとして設定、各種リレー操作を行う

例１）自動着信後、外線電話機の　［１］～［８］をプッシュするとNo.１～８のリレーがＯＮ、放すとＯＦＦする

AT!VF3	ＣＮ５の用途を８制御出力に設定
AT!SF0=6!SF1=6!SF2=6!SF3=6!SF4=6!SF5=6!SF6=6!SF7=6	制御出力０～７（ＣＮ５のNo.２～No.９）を６の動作（ワンプシュ動作）に設定
AT!SB0=1!SB1=2!SB2=3!SB3=4!SB4=5!SB5=6!SB6=7!SB7=8	制御出力０～７（ＣＮ５のNo.２～No.９）をＤＴＭＦ［１］～［８］に設定
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1!SE4=1!SE5=1!SE6=1!SE7=1	制御出力０～７（ＣＮ５のNo.２～No.９）が受信した信号に応じた動作を行う

※上記設定後は、AT&W（設定の保存）を行い、電源を入れ直します。

例２）自動着信後、外線電話機の

［２］を押すとNo.１のリレーがＯＮ、放すとＯＦＦ　　［４］を押すとNo.２のリレーがＯＮ、放すとＯＦＦ

［６］を押すとNo.３のリレーがＯＮ、放すとＯＦＦ　　［８］を押すとNo.４のリレーがＯＮ、放すとＯＦＦ

AT!VF3	ＣＮ５の用途を８制御出力に設定
AT!SF0=6!SF1=6!SF2=6!SF3=6	制御出力０～３（ＣＮ５のNo.２～No.５）を６の動作（ワンプシュ動作）に設定
AT!SB0=2	制御出力０（ＣＮ５のNo.２）をＤＴＭＦ［２］に設定
AT!SB1=4	制御出力１（ＣＮ５のNo.３）をＤＴＭＦ［４］に設定
AT!SB2=6	制御出力２（ＣＮ５のNo.４）をＤＴＭＦ［６］に設定
AT!SB3=8	制御出力３（ＣＮ５のNo.５）をＤＴＭＦ［８］に設定
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1	制御出力０～３（ＣＮ５のNo.２～No.５）が受信した信号に応じた動作を行う

※上記設定後は、AT&W（設定の保存）を行い、電源を入れ直します。

例３）自動着信後、外線電話機の

特定のＤＴＭＦ信号を受信するとＯＮになり保持し、それ以外のＤＴＭＦ信号を受信するとＯＦＦ

（ここでは特定のＤＴＭＦ信号を［＊］とする）

AT!VF3	ＣＮ５の用途を８制御出力に設定
AT!SF0=7	制御出力０（ＣＮ５のNo.２）を７の動作（ワンプシュラッチ動作）に設定
AT!SB0=11	制御出力０（ＣＮ５のNo.２）をＤＴＭＦ［＊］に設定
AT!SE0=1	制御出力０（ＣＮ５のNo.２）が受信した信号に応じた動作を行う

※上記設定後は、AT&W（設定の保存）を行い、電源を入れ直します。

例４）自動着信後、外線電話機の［１］［＊］～［８］［＊］をプッシュすると№１～８のリレーがＯＮ、
［１］［＃］～［８］［＃］をプッシュすると№１～８のリレーがＯＦＦする

AT!VF3	ＣＮ５の用途を８制御出力に設定
AT!SF0=8!SF1=8!SF2=8!SF3=8!SF4=8!SF5=8!SF6=8!SF7=8	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）を８の動作（メモリー照合ラッチ動作）に設定
AT!X0=1!X1=2!X2=3!X3=4!X4=5!X5=6!X6=7!X7=8	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）でＯＮにするメモリー番号を１～８に設定
AT!Y0=21!Y1=22!Y2=23!Y3=24!Y4=25!Y5=26!Y6=27!Y7=28	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）でＯＦＦにするメモリー番号を２１～２８に設定
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1!SE4=1!SE5=1!SE6=1!SE7=1!SE8=1	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）が受信した信号に応じた動作を行う
AT&Z1=1*&Z2=2*&Z3=3*&Z4=4*&Z5=5*&Z6=6*&Z7=7*&Z8=8*	メモリー番号１～８にＤＴＭＦ［１］［＊］～［８］［＊］を登録
AT&Z21=1#&Z22=2#&Z23=3#&Z24=4#&Z25=5#&Z26=6#&Z27=7#&Z28=8#	メモリー番号２１～２８にＤＴＭＦ［１］［＃］～［８］［＃］を登録

※上記設定後は、AT&W（設定の保存）を行い、電源を入れ直します。

例５）自動着信後、外線電話機の［１］［＊］～［８］［＊］をプッシュすると№１～８のリレーが３秒後にＯＮ、
［１］［＃］～［８］［＃］をプッシュすると№１～８のリレーが５秒後にＯＦＦする

AT!VF3	ＣＮ５の用途を８制御出力に設定
AT!SF0=9!SF1=9!SF2=9!SF3=9!SF4=9!SF5=9!SF6=9!SF7=9	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）を９の動作（メモリー照合遅延ラッチ動作）に設定
AT!SB0=1!SB1=1!SB2=1!SB3=1!SB4=1!SB5=1!SB6=1!SB7=1	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）がＯＮ条件の制御番号を１に設定
AT!O1=30	制御時間番号１に３秒の遅延時間を設定
AT!SA0=2!SA1=2!SA2=2!SA3=2!SA4=2!SA5=2!SA6=2!SA7=2	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）がＯＦＦ条件の制御番号を２に設定
AT!O2=50	制御時間番号２に５秒の遅延時間を設定
AT!X0=1!X1=2!X2=3!X3=4!X4=5!X5=6!X6=7!X7=8	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）をＯＮにするメモリー番号を１～８に設定
AT!Y0=21!Y1=22!Y2=23!Y3=24!Y4=25!Y5=26!Y6=27!Y7=28	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）をＯＦＦにするメモリー番号を２１～２８に設定
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1!SE4=1!SE5=1!SE6=1!SE7=1	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）が受信した信号に応じた動作を行う
AT&Z1=1*&Z2=2*&Z3=3*&Z4=4*&Z5=5*&Z6=6*&Z7=7*&Z8=8*	メモリー番号１～８にＤＴＭＦ［１］［＊］～［８］［＊］を登録する
AT&Z21=1#&Z22=2#&Z23=3#&Z24=4#&Z25=5#&Z26=6#&Z27=7#&Z28=8#	メモリー番号２１～２８にＤＴＭＦ［１］［＃］～［８］［＃］を登録する

※上記設定後は、AT&W（設定の保存）を行い、電源を入れ直します。

例６）自動着信後、外線電話機の［１］～［８］をプッシュすると№１～８のリレーがＯＮし、３秒後にＯＦＦする

AT!VF3	ＣＮ５の用途を８制御出力に設定
AT!SF0=9!SF1=9!SF2=9!SF3=9!SF4=9!SF5=9!SF6=9!SF7=9	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）を９の動作（メモリー照合ワンショット動作）に設定
AT!SA0=0!SA1=0!SA2=0!SA3=0!SA4=0!SA5=0!SA6=0!SA7=0	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）がＯＦＦ条件の制御時間番号を０に設定
AT!00=30	制御時間番号０に３秒の遅延時間を設定
AT!Z0=1!Z1=2!Z2=3!Z3=4!Z4=5!Z5=6!Z6=7!Z7=8	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）をメモリー番号１～８で実行する
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1!SE4=1!SE5=1!SE6=1!SE7=1	制御出力０～７（ＣＮ５の№２～№９）が受信した信号に応じた動作を行う
AT&Z1=1&Z2=2&Z3=3&Z4=4&Z5=5&Z6=6&Z7=7&Z8=8	メモリー番号１～８にＤＴＭＦ［１］～［８］を登録する

※上記設定後は、AT&W（設定の保存）を行い、電源を入れ直します。

例７）自動着信後、外線電話機のＴＫ－９６１０ＢＴのＯ１～Ｏ４接点を、プッシュボタンに対応するバイナリコードでＯＮ／ＯＦＦし、Ｏ５接点を、何れかのボタンをプッシュしている間、ＯＮする（表８－１参照）

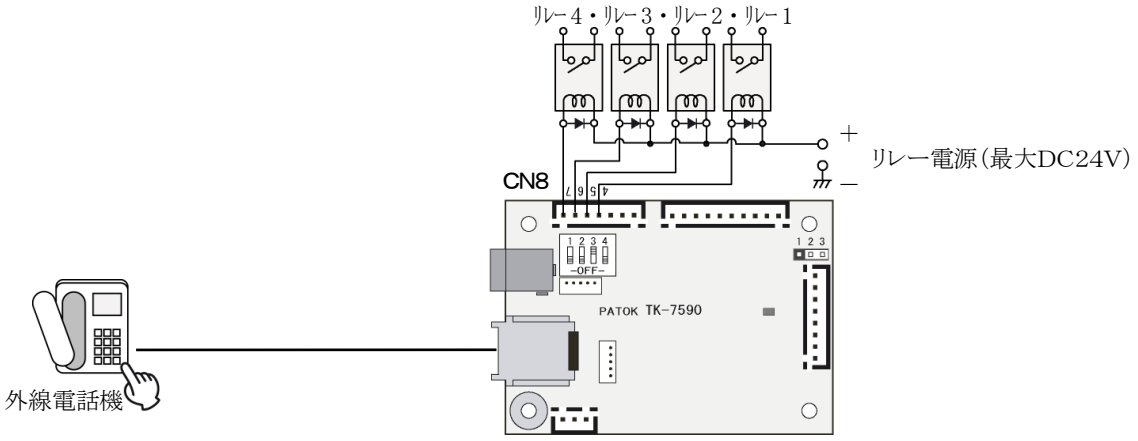
AT!VF3	ＣＮ５の用途を８制御出力に設定
AT!SF0=1!SF1=2!SF2=3!SF3=4!SF4=19!SF8=5	制御出力０～３をバイナリＤ１～Ｄ４、制御出力４を論理和（正論理） 制御出力８をバイナリＤＶに設定
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1!SE8=1	制御出力０～３、８を受信した信号に応じた動作を行う
AT!X4=8!Y4=8!Z4=8	制御出力４を遅延ＤＶ（約 10ｍｓ）

※上記設定後は、AT&W（設定の保存）を行い、電源を入れ直します。

表８－１　プッシュボタンとＯ１～Ｏ４の関係

プッシュボタン	解析値	ＴＫ－９６１０Ｂの接点				
		Ｏ１	Ｏ２	Ｏ３	Ｏ４	Ｏ５
		Ｄ１	Ｄ２	Ｄ３	Ｄ４	ＤＶ
Ｄ	０	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	
１	１	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	
２	２	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	
３	３	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	
４	４	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	
５	５	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	
６	６	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	
７	７	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	
８	８	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	
９	９	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	
０	１０	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＮ	
＊	１１	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＮ	
＃	１２	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＮ	
Ａ	１３	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＮ	
Ｂ	１４	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	
Ｃ	１５	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ	

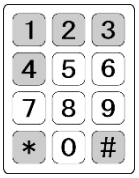
［B］ＣＮ８に一般リレーを接続して行う（最大４個）



【図８－２】ＣＮ８の№４～７をリレー駆動端子として使用

例１）自動着信後、外線電話機の［１］［＊］～［４］［＊］をプッシュすると№１～４のリレーがＯＮ
［１］［＃］～［４］［＃］をプッシュすると№１～４のリレーがＯＦＦする

有効ボタン

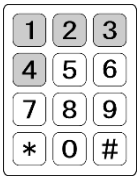


AT!D0=18!D1=19!D2=20!D3=21	ＣＮ８の№４～７を制御出力１８～２１に設定

※制御出力１８～２１のデフォルト操作は［１］～［４］［＊］でON、［１］～［４］［＃］ＯＦＦです
このデフォルト操作の変更を以下、例２)、例３)で示します

例２）自動着信後、外線電話機の［１］～［４］をプッシュすると№１～４のリレーがＯＮ、放すとＯＦＦする

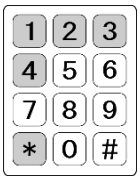
有効ボタン



AT!D0=18!D1=19!D2=20!D3=21	ＣＮ８の№４～７を制御出力１８～２１に設定
AT!SF18=6!SF19=6!SF20=6!SF21=6	制御出力１８～２１を６の動作（ワンプシュ動作）に設定
AT!SB18=1!SB19=2!SB20=3!SB21=4	制御出力１８～２１を[１]～[４]に設定
AT!SE18=1!SE19=1!SE20=1!SE21=1	制御出力１８～２１の動作を「受信した信号により行う」に設定

例３）自動着信後、外線電話機の［１］～［４］に続いて［＊］を押している間、リレー１～４がＯＮ

有効ボタン



AT!D0=18!D1=19!D2=20!D3=21	ＣＮ８の№４～７を制御出力１８～２１に設定
AT!T1=1	［＊］の入感が無くなり１秒（設定範囲の最小値）後にＯＦＦに設定

■９　各種動作状態の接点出力

本装置の動作状態の変化が、ＣＮ８の№４～７に接続したリレーでＯＮ／ＯＦＦの接点出力として得られます
下記は出荷時の設定です

・№４に接続したリレー（リレー１）を、回線電流を検知中ＯＮにする
・№５に接続したリレー（リレー２）を、回線極性を検知したらＯＮにする
・№６に接続したリレー（リレー３）を、コールプレグレストーン※を検知したらＯＮにする
・№７に接続したリレー（リレー４）を、音声を検知したらＯＮにする

AT!D0=27	ＣＮ８の№４を制御出力２７に設定
AT!D1=31	ＣＮ８の№５を制御出力３１に設定
AT!D2=32	ＣＮ８の№６を制御出力３２に設定
AT!D3=27	ＣＮ８の№７を制御出力２７に設定

※コールプレグレストーン
オフフックしたときのダイヤルトーンや、話中のビジートーンなどの
４００Ｈｚトーン

「AT!D」の行を編集することで様々な動作設定が可能です。
各種の動作項目に付いては「リファレンスマニュアル　１５動作状態確認」を参照して下さい。

応用参考例

その１）

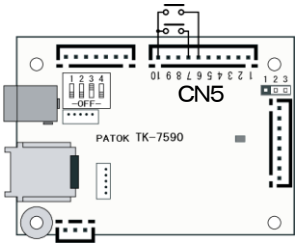
自動着信後、ＣＮ５に接続した２個のスイッチのＯＮ／ＯＦＦ状態を個別にアンサーバックする。（ＡＶのみ）

［１］［＃］を押すと、ＣＮ５の№６がＯＮの時は音声メモリー№１を、ＯＦＦの時は音声メモリー№３を再生

［２］［＃］を押すと、ＣＮ５の№７がＯＮの時は音声メモリー№２を、ＯＦＦの時は音声メモリー№４を再生

AT!VF0	ＣＮ５の用途を「８制御入力」に設定
AT!SF4=10!SF5=10	制御出力４、５をアンサーバックに設定
AT!X4=1!X5=2	制御出力４、５をＯＮにするメモリー番号を１、２に設定
AT!Y4=3!Y5=4	制御出力４、５をＯＦＦするメモリー番号を３、４に設定
AT!Z4=21!Z5=22	制御出力４、５をメモリー番号２１、２２で実行する
AT!SE4=1!SE5=1	制御出力４、５を「受信した信号により行う」に設定
AT&Z1=01!G1=18	メモリー番号１に音声メモリー番号１を登録し、グループ番号１８に設定する
AT&Z2=02!G2=18	メモリー番号２に音声メモリー番号２を登録し、グループ番号１８に設定する
AT&Z3=03!G3=18	メモリー番号３に音声メモリー番号３を登録し、グループ番号１８に設定する
AT&Z4=04!G4=18	メモリー番号４に音声メモリー番号４を登録し、グループ番号１８に設定する
AT&Z21=1#	メモリー番号２１に１＃を登録する
AT&Z22=2#	メモリー番号２２に２＃を登録する

２個のスイッチのON／ＯＦＦを
音声で確認



その２）

自動着信後、暗証番号を確認して操作受付。

外線電話機の　［１］～［４]をプッシュすると、リレー１～４が設定時間ＯＮ、併せてアンサーバックも行う。（ＡＶのみ）

①暗証番号入力を要求・・・・メッセージ１を再生　（暗証番号待機中は、ピピピ音で入力要求）

②暗証番号を００８１にする

③暗証番号一致の時・・・・・メッセージ２を再生

〃　不一致の時・・・・メッセージ３を再生　（暗証番号待機中は、ピピピ音で入力要求）

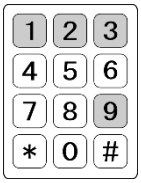
④［１］を押すとリレー１を１秒間ＯＮ、メッセージ４を再生　・・・　“○○が動作中です”など

⑤［２］を押すとリレー２を１秒間ＯＮ、メッセージ５を再生　・・・　“□□が動作中です”など

⑥［３］を押すとリレー３を１秒間ＯＮ、メッセージ６を再生　・・・　“△△が動作中です”など

⑦［９］を押すとリレー４を１秒間ＯＮ、メッセージ７を再生　・・・　“強制終了をします”など

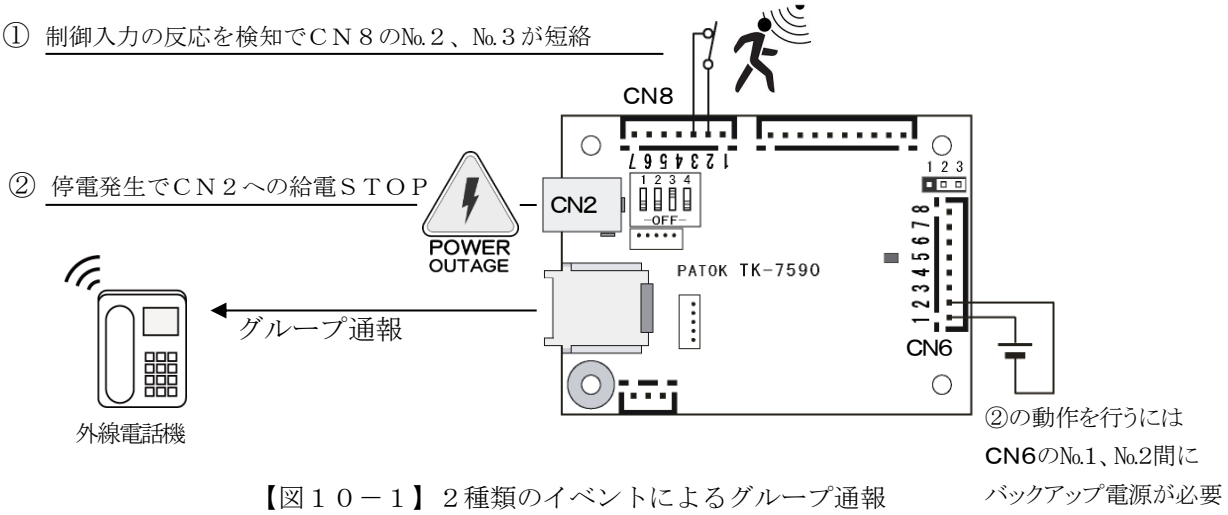
有効ボタン



AT!B1	「暗証番号」の送信要求
AT!M0=0081	「暗証番号」を００８１に変更（デフォルトは１２３４）
AT&Z70=81	メモリー番号７０に８１を設定（音声メモリー番号１）
AT&Z76=90	メモリー番号７６に９０を設定（暗証番号入力要求音：ピピピ音）
AT&Z77=82	メモリー番号７７に８２を設定（音声メモリー番号２）
AT&Z78=83	メモリー番号７８に８３を設定（音声メモリー番号３）
AT!D0=18!D1=19!D2=20!D3=21	ＣＮ８の№４～№７を制御出力１８～２１に設定
AT!SF18=9!SF19=9!SF20=9!SF21=9	制御出力１８～２１の動作を「メモリー照合遅延ラッチ」に設定
AT!SA18=0!SA19=0!SA20=0!SA21=0	制御出力１８～２１がＯＦＦ条件の制御時間番号を０に設定
AT!O0=10	制御時間番号０に１秒の遅延を設定する（１秒間ＯＮする）
AT&Z1=1&Z2=2&Z3=3&Z4=9	メモリー番号１～３に１～３を、メモリー番号４に９を登録する
AT!Z18=1!Z19=2!Z20=3!Z21=4	制御出力１８～２１をメモリー番号１～４で実行する
AT!SE18=1!SE19=1!SE20=1!SE21=1	制御出力１８～２１を「受信した信号により行う」に設定にする
AT&Z51=04&Z52=05&Z53=06&Z54=07	メモリー番号５１～５４に音声メモリー番号４～７を登録する
AT!G51=18!G52=18!G53=18!G54=18	メモリー番号５１～５４をグループ１８（音声メモリーグループ）に設定する
AT!SF42=10!SF43=10!SF44=10!SF45=10	制御出力４２～４５の動作を「アンサーバック」に設定
AT!X42=51!X43=52!X44=53!X45=54	制御出力４２～４５をＯＮにするメモリー番号を５１～５４に設定する
AT!SE42=2!SE43=2!SE44=2!SE45=2	制御出力４２～４５を「制御入出力の変化により行う」に設定にする

■１０　グループ通報を行う設定

【図１０－１】の接続で、グループ通報を行います。通報源となるイベントには以下の２種類があげられます。



【図１０－１】２種類のイベントによるグループ通報

① 制御入力の反応によるグループ通報

例）

ＣＮ８の№.２がＯＦＦからＯＮに変化したときに通報を行う。

感知したら、３０秒後に、電話番号「0827-24-0081」と「0827-24-1444」に通報する。

通報手順は「暗証番号確認」とし暗証番号を「5678」する。音声メモリー№.１に録音したメッセージを再生する。（ＡＶのみ）

AT&Z0=0827240081	メモリー番号０（グループ番号０）に０８２７－２４－００８１を登録する
AT&Z1=0827241444	メモリー番号１（グループ番号０）に０８２７－２４－１４４４を登録する
AT!A1	通報手順を「暗証番号確認」にする
AT!M0=5678	「暗証番号」を５６７８に変更（デフォルトは１２３４）
AT!I17=3000	制御入力（CN8の№.2、№.3）の変化を検知後３０秒に応答する
AT!SF17=15	制御入力（CN8の№.2、№.3）の変化をグループ通報する
AT!SA17=0	通報を行うグループ番号を０にする
AT!G75=18	メモリー番号７５をグループ番号１８にする
AT&Z75=01	メモリー番号７５に音声メモリー番号０１を登録

② 停電検知によるグループ通報

例）

停電を感知したら、１０秒後に、電話番号「0827-24-0081」と「0827-24-1444」に通報する。

通報手順は「グループ全員応答」とする。音声メモリー№.１に録音したメッセージを再生する。（ＡＶのみ）

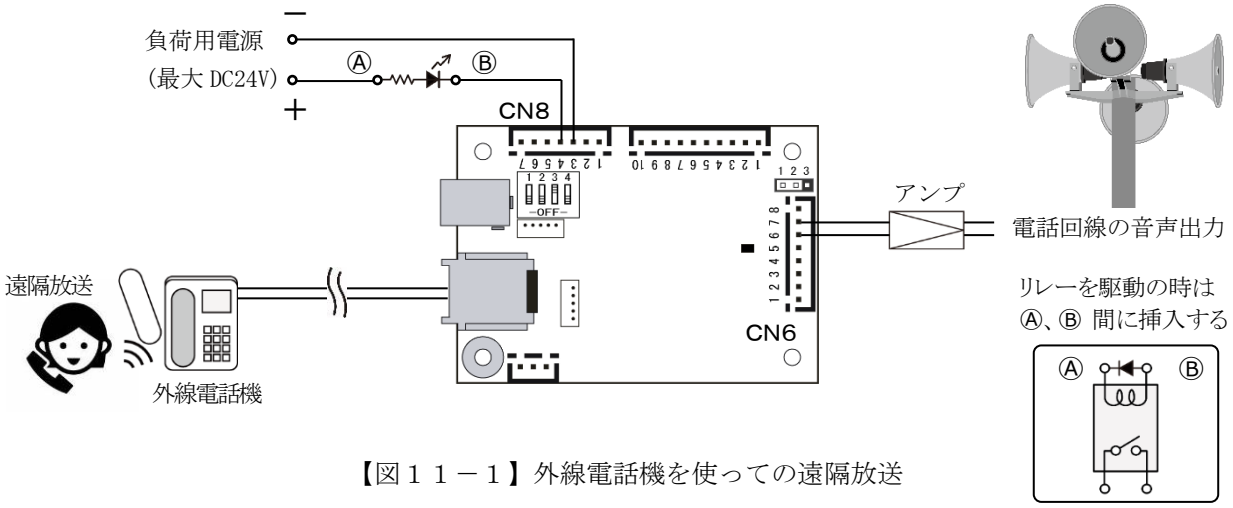
AT&Z0=0827240081	メモリー番号０（グループ番号０）に０８２７－２４－００８１を登録する
AT&Z1=0827241444	メモリー番号１（グループ番号０）に０８２７－２４－１４４４を登録する
AT!A2	通報手順を「グループ全員応答」にする
AT!I16=1000	停電検知入力（ＣＮ２への給電ＳＴＯＰ）の変化を検知後１０秒に応答する
AT!SF16=15	停電検知入力をグループ通報する
AT!SA16=0	通報を行うグループ番号を０にする
AT!G74=18	メモリー番号７４をグループ番号１８にする
AT&Z74=01	メモリー番号７４に音声メモリー番号０１を登録

■１１　外線電話機から遠隔放送を行う設定

【図１１－１】の接続で、回線成立後、外線電話機からの遠隔放送が可能です。
ＣＮ６の受話信号出力端子№６－№７より、「電話回線の音声出力」を、
ＣＮ８の情報出力端子№４(ｵｰﾌﾟﾝﾄﾞﾚｲﾝ)より、「外部回路へのドライバー出力」を
それぞれ取出すことが出来ます。

例）自動着信後、「暗証番号」を送信。暗証番号受付後、放送を行う。オフフックで放送終了。
（暗証番号を 0081 とする）

AT!B1	「暗証番号」送信要求
AT!M0=0081	「暗証番号」を００８１に変更（デフォルトは１２３４）
AT!D0=27	CN８の№４が自動着信するとＯＮ



【図１１－１】外線電話機を使っての遠隔放送

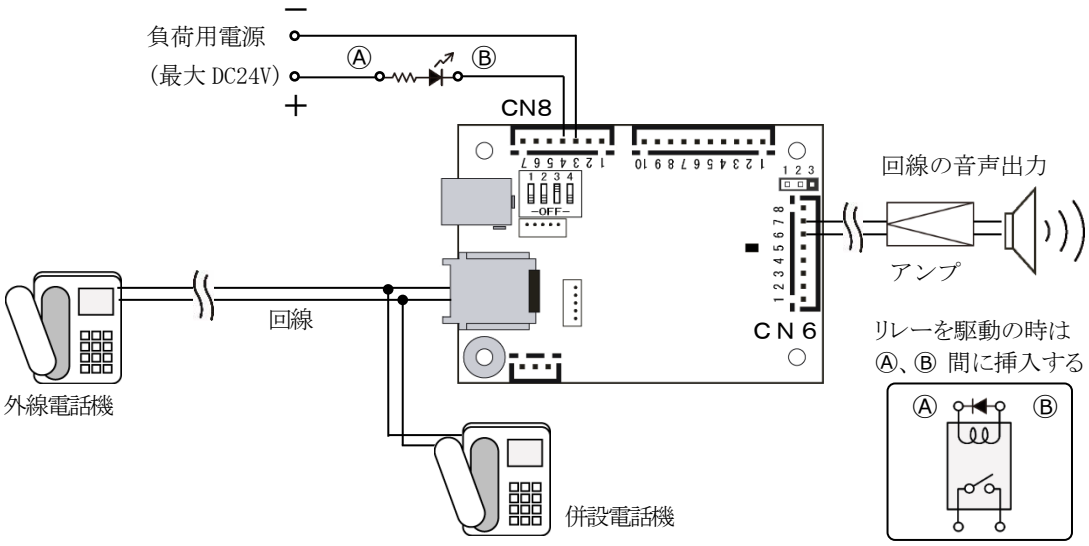
■１２　回線モニターの設定

通常のオフフック(回線接続)とは異なり、回線に音声を重畳するための出力が入りません。
回線のインピーダンスが高く保てるので、回線に併設した電話機に及ぼす影響を最小限に止めることが出来ます。

併設電話機でオフフックすると、ＣＮ６より回線の音声が出力されます。
併せて、ＣＮ８より外部機器の起動信号を取り出します。

AT!VP1	回線のモニターを行う
AT!DO=25	CN８のNo.４が回線接続中と回線モニター動作中ＯＮ

※回線の声が大き過ぎますと（併設電話機からの声)、オフフックすることがあります。

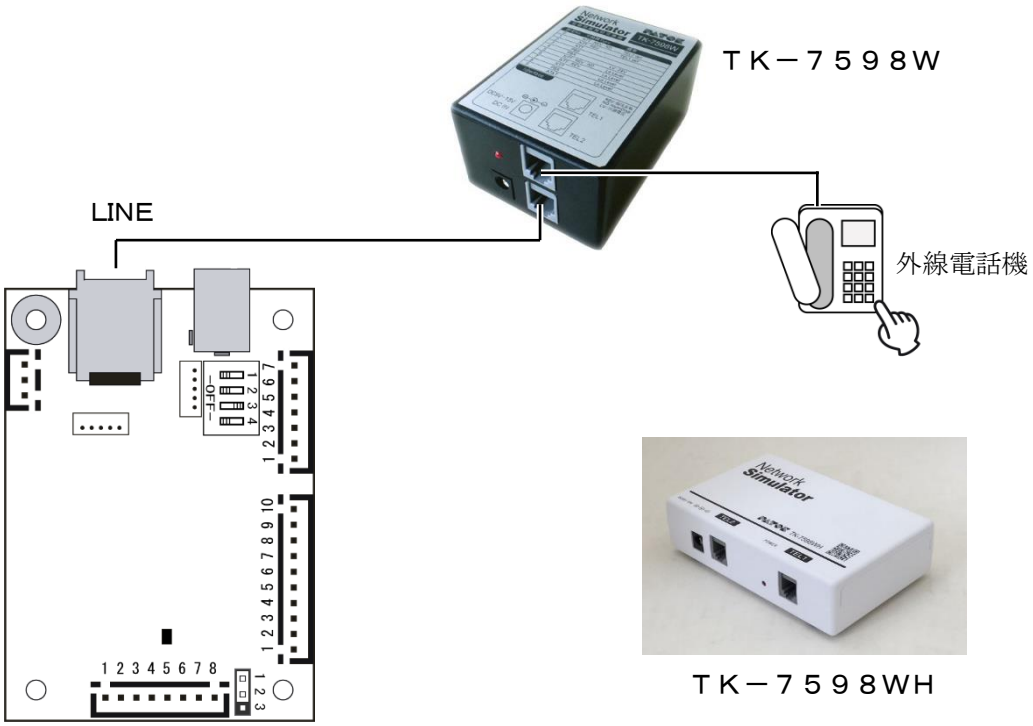


【図１２－１】外線電話機と併設電話機の通話をモニター

■13 疑似交換機のご案内

本製品は、電話網のシミュレーションを行うための疑似交換機で、日本の発信電話番号受信機能(ナンバーディスプレー)に対応しています。
以下の機能を備え、本装置の各種設定や通信確認に威力を発揮します。

- 電話機やFAX等の電話端末設備を、加入者回線に接続することなく試験やデモンストレーションができます。
- 代表的な日本交換機の場合、設定により、信号アッテネータが入りますので、厳しい試験ができます。
- 設定により、内線(外線「0」発信)の48V回線または24V回線のシミュレーションができます。
- 設定により、代表的な日本NTT交換機と米国AT＆T交換機の信号を発生できます。
- 各回線は独立設定のため、1回線は代表的な日本NTT交換機、もう1回線は米国AT＆T交換機のような使い方ができます。
- 本装置は、2線式電話端末設備用です。故障の原因となる場合がありますので2線式電話端末設備以外には接続しないで下さい。
- 小型・軽量です。
  [TK-7598W]　幅 60mm×高さ 40mm×奥行 85mm(100g)
  [TK-7598WH] 幅 125mm×高さ 32mm×奥行 80mm(150g)



【図１３-１】疑似交換機を利用しての各種の設定・動作確認

ＰＡＴＯＫ
松本無線パーツ株式会社岩国
〒740-0018
山口県岩国市麻里布町４－１４－２４
TEL(0827)24-0081㈹
FAX(0827)24-1444

2022.2